

[TPN 水和剤 (フロアブル)]

# ダコニールエース

有効成分：TPN (PRTR・1種) ..... 53.0%

性 状：類白色水和性粘稠懸濁液体  
 有効年限：3年  
 包 装：1ℓ×12本  
 4ℓ×4缶

ダコニールエースは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

## 〔特長〕

- 北海道の畑作・園芸の基幹防除剤として適する。畑作・園芸の重要病害に優れた効果を示す。
- 作物の汚れが少ない。  
 一般に水和剤は薬液散布後に作物に汚れが残るが、本剤はこの汚れの原因であるクレイ等の鉱物質を含んでいないので、散布後の汚れが少ない。
- 耐性菌の確認事例がない。  
 有効成分のTPNは、広範囲の作物・病害に使用されているが、耐性菌の出現事例はない。
- 有効成分が微粒子なので優れた効力を発揮する。  
 フロアブル製剤により、有効成分が微粒子になっているため、植物を被覆する面積も大きく、また均一に付着する。耐光・耐雨性にも優れる。
- 散布液の調製が簡単である。  
 ストレプトマイシン剤と混用する場合、混用順にかかわらず散布液を調製できる。また、水中分散性や懸垂性に優れているので、水に入れると速やかに分散し、散布液を調製するのが簡単である。

## 〔適用病害と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数	
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (リゾープス菌)	1000	育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌約 5ℓ)1箱当り500ml	は 種 時	1回	土壤灌注	2回	
小麦	縞萎縮病	20~30	80~100ℓ /10a	は 種 前		全面散布後 土壤混和	1回	
きゅうり	べ と 病	1500	100~300ℓ / 10a	前日	8回	散布	10回(土壤灌注:2回、 散布及びくん煙及びエア ゾル剤の噴射:合計8回)	
トマト	疫 病 葉 か び 病				4回		6回(土壤灌注:2回、 散布及びくん煙及びエア ゾル剤の噴射:合計4回)	
ミニトマト					2回		2回	
すいか メロン	つる枯病				3日		5回	5回
たまねぎ	べ と 病 黄 斑 病 灰色腐敗病 灰色かび病				750		7日	6回
てんさい	褐 斑 病	750~1500	30日	3回	3回			
アスパラガス	茎 枯 病 斑 点 病	1500	100~400ℓ / 10a	前日	4回	4回		
茶	炭 疽 病	1500	200~400ℓ / 10a	10日	1回	1回		
にんじん	黒葉枯病 黒斑病	750~1500 750	100~300ℓ / 10a	7日	5回	5回(種子への吹き 付け処理:1回)		

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期*	本剤の* 使用回数	使用方法	TPNを含む農薬の* 総使用回数
ばれいしょ	疫 病	750~1500	100~300ℓ / 10a	7日	5回	散布	5回
		125	25ℓ / 10a				
	夏 疫 病	750~1500	100~300ℓ / 10a				
せんきゅう	べ と 病	1000					
かぼちゃ	うどんこ病 黒 斑 病 つる 枯 病	1500		3回	3回		

※収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫（摘採）前の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

## 効果・薬害等の注意

- 使用直前に容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- ホセチル剤と混用する場合、必ず本剤を先に所定の濃度に希釈してから加える。
- ばれいしょに対して希釈倍数125倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 安全使用上の注意

- 誤飲に注意。



- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。また薬液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。

- 皮膚に付着しないよう注意。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

- 夏期高温時の使用をさける。



- 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。

- 作業時の衣服等は、他と分けて洗濯する。



- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさける。



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。



- 魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。使用した苗は養魚田に移植しない。移植後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。（魚類）

- 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。空容器（空袋）は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

[保管]：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

PRTR法に対応するその他の注意は別表の分類6、12に表示してある。（P244）

農業登録（登録番号）：エス・ディー・エス バイオテック（20169）

販売：クミアイ化学工業、住友化学